



2021 年度事業計画

自 2021 年 4 月 1 日

至 2022 年 3 月 31 日

学校法人多摩美術大学

学校法人多摩美術大学事業計画

中長期計画に基づく、目標達成のための2021年度の主な事業計画は以下の通りである。

(1) 教育・研究運営面の推進計画

◆教務部

【教務課】

- ① 専門性と総合性の融合を目指した教育改革—教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み
教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み

(a) カリキュラム改革 (b) 教育方法の改善 (コロナ禍における対面授業とオンライン授業の効果的な運用) (c) 教育課程の体系化 (d) 授業運営の実質化および改善 (e) 単位制度の実質化 (f) 厳格な成績評価への取り組み (g) 多様化する学生への対応 (h) 職員の職能開発 (SD) (i) 高大連携 (小中も含む) の推進 (j) 大学間の連携促進
- ② 第3期認証評価への対応 (大学基準協会へ点検・評価報告書を提出) —教育及び研究体制の整備と再点検
2022年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価を受審するため、2021年度内に点検・評価報告書を作成し提出する
第3期の評価のポイントは以下となり、これを機に教育及び研究体制の整備と再点検を行う
(a) 内部質保証システムの実質化に向けた全学的な取り組みがなされているか、具体的には、内部質保証の起点となる三つの方針 (学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受入れ方針) に基づき、学位プログラムの適切な運用、教育プロセスや学習成果の検証、その検証結果を活用した学位プログラムの改善・向上の状況はどうか
(b) 前回 (第2期認証評価) における問題点 (努力課題または改善勧告) への対応がなされたか
- ③ 大学院改革
2019年度までに大学院PTにおいて策定した「大学院・課程に係る現状の問題点について (まとめ)」、「大学院 (修士) に関する目標設定および方策」にもとづき、具体的な方策を検討していく
具体的な検討事項については、以下のとおり
(a) 修了要件 (確定済み、2022年度入学者から適用) (b) 共通選択科目 (c) 大学院担当教員
- ④ リベラルアーツ改革
2020年10月よりリベラルアーツPTを発足させ、2015年12月に策定した教養教育

カリキュラム設計書、2017年に実施した共通教育科目のシェイプアップを見直し、多摩美術大学らしいリベラルアーツを再設計する

【入試課】

- ① 入学者選抜の制度を再検討して志願者増につなげる（継続）
 - ・一般選抜における日程を再調整する
 - ・地元志向の現状を打破するために、国公立も見据えて科目や選抜方法を再考する
 - ・志願者状況から入試種別ごとや学科専攻コースの選抜方法再検討する
 - ・大学院美術研究科博士前期課程（修士課程）の選抜方法の再考する
- ② 入学者選抜方法を解りやすく案内する
 - ・選抜名称や選抜方式を解りやすく再考する
 - ・入試概要（本学サイト）や学生募集要項、入試ガイド等の掲載方法を再検討する
- ③ 特別選抜B、大学院選抜を中心に運営方法を再検討する（継続）
 - ・各選抜での問題点を確認し改善する
 - ・大学院事前面談の運営方法を研究室と共に再検討する
- ④ 新型コロナウイルスなど発生時の入試体制・運営方法の見直し
 - ・前年度のコロナ禍での運営方法を検証して、今後の対応を再構築する

【国際交流センター】

- ① 新規海外協定校の増加
 - ・Cumulus(国際美術・デザイン・メディア大学連合)の加盟により、国際的な本学知名度向上
 - ・国や地域のバランスを考慮した上での、新たな海外協定校の増加・国や地域のバランスを考慮した上での、新たな海外協定校の増加
- ② 提携校への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ増加
 - ・コロナ禍における交換留学生受入基準の見直し
 - ・交換留学制度だけでなく、共同授業・ワークショップの実施
- ③ 学生が留学しやすくなる制度設計
 - ・交換留学派遣時期の多様化
 - ・英語検定試験機会の学生への提供
 - ・学生の留学費用や海外大学との共同授業・ワークショップ開催費用を軽減するための外部補助金の獲得・活用
 - ・海外大学での取得単位認定方法の多様化検討
- ④ サポート体制の充実
 - ・外国人留学生に対する英語・中国語・韓国語での対応
 - ・外国人留学生に対する本学webサイトおよびSNSを活用した情報提供
 - ・各部署・研究室からの依頼に対するサポート向上
 - ・コロナ禍における外国人留学生来日にかかる情報収集・提供
- ⑤ 外国語に接する機会を増やす環境づくり

- ・ 学生に対する英語検定試験受験機会の提供
- ・ 国際交流ラウンジ活用方法の検討
- ・ 国際交流パーティー実施による日本人学生と海外留学生の交流促進

【研究支援課】

- ① 学内研究活動の活性化と情報公開促進
 - ・ 学内における個人研究・共同研究、産学官共同研究の推進と活性化
 - ・ 学内研究活動を学外の競争的資金に繋げるための取組み強化
 - ・ 教員が研究活動によって得た成果を、積極的に教育活動へ取り入れるための有機的な連携
 - ・ 研究成果の発信強化（成果報告会、ひらめき☆ときめきサイエンス、機関リポトリ活用など）
 - ・ 産学官共同研究受託の増加
 - ・ 研究紀要の発行
- ② 競争的資金獲得のための支援強化
 - ・ 科学研究費助成事業をはじめとする競争的資金申請件数増加に向けた支援強化
 - ・ 外部業者による科研費応募支援サービスを活用し、研究者の育成を行うと共に、申請件数、採択件数を増加させる
- ③ 公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）と不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく体制整備の促進
 - ・ 不正使用の事前防止のための体制整備
 - ・ 教員と学生への研究倫理教育
 - ・ 検収体制の整備
 - ・ 前年度内部監査の指摘事項改善
 - ・ 研究推進会議の定例化による問題点の検討
 - ・ コンプライアンス研修会、研究倫理研修会の開催
 - ・ 研究費に関するルールの周知徹底、事例集の整備

◆学生部

【学生課】

- ① 奨学金等に関する見直し
 - ・ 国の高等教育修学支援新制度への対応を行うとともに、手続きの見直しを2022年度に向けて検討する
 - ・ 本学奨学金・減免制度の見直しを検討し、2022年度以降に実施対応できるよう見直す
- ② 奨学金等に関する体制変更に伴う整備
 - ・ 奨学金等業務を業務委託業者へ転換（アウトソーシング）し、4月～6月引継ぎ期間とし、7月以降は委託業者が軸として対応できるようにする
 - ・ 経済的に困窮する学生に対する支援窓口として、個々に応じた相談、紹介を

- 学生課スタッフが行えるよう、委託業者と役割の分担を行う
- ③ 学生支援アンケートの結果を踏まえた新型コロナウイルス禍における学生支援の取り組み
 - ・経済的に厳しい状況下にある学生へ支援を検討し、実施する
 - ・コロナ禍に伴う学生の心のケアを意識し、様々な施策を検討し実行する
 - ・コロナ禍における課外活動、学生交流の支援を学生と共に、検討し、実行する
 - ④ 学生の住環境に配慮した支援
 - ・新設された学生寮の寮生・管理委託業者(寮長・寮母)と協議しながら運営を行う
 - ・新設された学生寮の今年度の募集を踏まえて、次年度の募集を計画し、委託業者と検討の上、実施する
 - ・寮以外のニーズも対応できるよう引続きアパート委託業者とも協力を図る
 - ・上野毛キャンパスの学生のニーズに合わせた住環境を検討し、業者と協議する
 - ⑤ 多様化する学生に対する支援及び学生相談等の充実
 - ・障がいをもつ学生について、関係者との情報共有と適切な対応を行うと共に、学内関係者の理解を深化するための講演等FD活動を行う
 - ・欠席過多等ケアを必要とする学生への研究室連携等による早期発見と支援(退学者対策)を行う
 - ・退学者の状況分析を継続して行ない、学内で検討し問題点の情報共有を図る
 - ・学生相談等を充実させるため、学生及び教職員へ情報の提供を行う

【キャリアセンター】

- ① 就職支援対策の推進強化
 - ・「就職内定率(就職者/就職希望者)」を87%以上とし、2年後の2023年度には90%以上とする
- ② 教員との連携強化
 - ・キャリア支援委員会を通じて体系的なキャリア支援を強化
- ③ 低学年からのキャリア(就職)に対する意識向上
 - ・低学年(1年・2年)ガイダンス、講座の強化
 - ・OB/OG、作家などによる講演会の実施
- ④ 外国人留学生への進路・就職支援配慮を要する学生進路・就職支援
 - ・外国人留学生対象のガイダンス・説明会の実施
 - ・国際交流センター、学生課、学生相談室、保健室との連携
 - ・センター内での情報共有を強化
- ⑤ コロナ禍における既卒者(未内定者)の支援
 - ・既卒者相談の拡充
 - ・既卒者向けのイベント実施

◆附属図書館

① 新しい図書館像の検討

＜利用しやすい図書館像を探る＞

- ・図書館利用の実態調査と課題の探索
- ・卒業生・社会人の学びへの対応及び見学や撮影の対応
- ・収書方針の明文化と適切な蔵書構築（八王子と上野毛の役割分担）上野毛写真コレクションの増強

＜職員構成を考える＞

- ・職員の世代交代のための準備

② サービス

＜利用者サービス＞

- ・新たなガイダンスの形を考える（授業連携・出前ガイダンス・webコンテンツの充実）

＜展示を活用した図書館資料のPR＞

- ・貴重書等展示
- ・テーマ展示（丸テーブル・学生による展示（POP作成など）

③ 発信と協働・連携

＜図書館活動に関する情報公開と利用者の意見を反映する仕組み作り＞

- ・ウェブサイトからの情報発信と情報公開の強化
- ・アンケート・投書箱などによる意見集約と改善

＜『言語と美術コレクション』の構築と展開＞

- ・コレクションの収集・整理によるデータベースの公開

＜他部署との協同・連携＞

- ・アートアーカイヴセンター、研究支援課との連携
- ・学術ポータルとの連携

④ 運営・管理

- ・書庫狭隘化対策の検討等の図書館設備の更新と検討課題確認
- ・上野毛キャンパス再整備に向けた準備
- ・職員の管理業務スキルアップ（1業務2人体制を整える）

◆附属美術館

① 展覧会開催（年間5本）

- ・「現代日本画DNA展」 2021年4月3日（土）～6月20日（日）
- ・「寺田コレクション展1」 2021年7月10日（土）～9月19日（日）
- ・「寺田コレクション展2」 2021年10月2日（土）～11月21日（日）
- ・「海老塚教授退職記念展」 2021年12月4日（土）～1月17日（月）
- ・「多摩美術大学博士課程展 2022」 2022年3月2日（水）～3月15日（火）

② 博物館実習

- ・学内博物館実習希望者（※）に対し延べ約60日の館務実習を行い卒業後の社

会活動への意識を高めると共に美術活動に於けるひとつの実践研修を目的とする

※2020年度受入実績約90名

- (a) 個別実習…作品の取り扱い、企画立案を含むプレスリリース制作と発表
- (b) 全体実習…ミュージアム及び学芸業務に関わる有識者による現場に特化した専門講義の開講

※希望があれば他大博物館実習生の受入れを行う

③ 収蔵作品調査

- ・2020年度に所在確認が終了した1500点の中から、600点を対象に撮影とコンディションチェック、調書記入、簡易クリーニングを進め、引き続き、作品の収蔵形態（所有・寄託・一時預かりの区別）の明確化と諸手続きを進めるとともに、作品の来歴（展覧会や所蔵の経緯など）の調査を進める（5箇年計画2年目）

④ 収蔵作品データベース構築

- ・旧リストと現作品の照合を進めると共にすでに、終了した1100点を対象に、収蔵作品調査と連携しデータベース内のリスト項目を記入してゆく（2021年度内に約600件の作業見込み）
- ・美術館展覧会やイベントなどの活動歴や作品来歴を調査・登録し、美術館の所管する作品と出来事（展覧会や所蔵の経緯などの作品来歴）を複合的・横断的に提示する情報構築を行う

⑤ 収蔵環境整備

- ・専門家による館内（収蔵庫・展示室）の温湿度・生物類（カビ・害虫など）の状況調査を行うと共に、改善目標の策定と作品保護環境整備に向けた作業を実施する。水漏・水害対策を強化。AAC, 図書館などの施設を統括するポータルサイトとの連携を図り、展覧会・イベント情報の他、データベース公開を前提としたリニューアルの準備作業を行う

⑥ 教育普及活動

- ・多摩市・八王子市の教育委員会を通じた小中学校との連携促進及び、東京都図工工作研究会との連携強化。生徒団体受け入れの誘致を進めると共に、その際の見学授業やワークショップなどに本学学生が関われるよう、学科や校友会などと協働を進める。

⑦ 生涯学習センター「あそびじゅつ」への会場提供

- ・年度内3期（春・夏・秋）にB1F多目的室または3Fミニシアターの会場提供を行う。

◆附属メディアセンター

① 事務室

- ・運営目的の見直しと検討

- (a) 学生への制作サポートについて、初学者から高度な技術提供までを計画的に行う
- (b) 制作から発表までをサポートできる体制をつくる
- ・運営体制の整備
 - (a) 各センター個別の運営ではなく、メディアセンターとしてのまとまりある運営ができるよう整備する
 - (b) 活動を学内に周知し、センター全体を活用してもらうための体制づくりを行う
- ・Adobe Creative Cloud 利用支援
 - (a) Adobe による初心者向け講座実施
 - (b) 初心者向け講座の内容の反復（後日動画閲覧）
 - (c) コンピュータスタジオにサポートスタッフを置く等のサポート体制を整える
- ・Web サイトの充実…施設予約状況を統一したフォーマットで公開
- ② 情報センター
 - ・学内ネットワーク環境の整備…主に大量パケットに起因する機器の予防交換を含めた耐久性対策としてネットワーク機器老朽化の対応を進める
 - ・次期サーバ更新に関する準備…次年度サーバ保守を含めた、サーバ更新の業者選考
 - ・WEB サーバ学外移行計画…本年度で概ね達成しているが、計画完了まで引き続きサポートする
- ③ 映像センター
 - ・制作環境の充実…デジタルペイント、映像編集、3DCG 制作、その他（VR など将来的な需要）へのバランスを考慮しての運用
 - ・貸し出し形態の再構築…コロナの影響が終息するまで 2020 年度と同様な形式を基本として継続運用していく
 - ・新入生への告知促進…4 月、5 月に新入生への認知度を上げる
- ④ 写真センター
 - ・施設・機材の有効活用
 - (a) 管理施設・機材の各科授業への提供
 - (b) 一部授業についての実習サポート
 - (c) 授業以外の時間帯は学生の自由使用時間とし、制作に必要な施設・機材を提供
 - ・講習会の開催
 - (a) 写真制作に必要な知識や技術の取得、また施設・機材の有効利用のため各種講習会を開催。（カメラ基礎、スタジオ使用法、スタジオライティング、絵画撮影、白黒フィルム現像、白黒プリント、カラープリント、デジタルプリント）
 - (b) 一律の講習で補えない相談や希望については可能な限り個別で対応

- ・貸出機材の更新
 - (a) 主にデジタル関連機材を充実。フィルム関連については現状を維持
 - (b) 一眼レフとミラーレスの二系統でデジタルカメラを更新
- ・施設・設備の更新と維持
 - (a) 各施設・設備のメンテナンス
 - (b) 撮影スタジオ設備は必要に応じてアクセサリーの拡充
 - (c) デジタルプリント室設置案の進行

⑤ 工作センター

<八王子>

- ・第三者機関による安全衛生診断に基づき安全第一の運営を行う
 - (a) 利用時間・方法
 - ア. 工作センターを利用する授業実習科目・課題の担当教員は、利用者の名簿・工作センター利用期間及び時間帯・希望工作機械の機種・作業内容等の詳細を記載した要望書を、工作センターと事前に打ち合わせをした上で提出
 - イ. 従来区切られていた学年ごとの利用時間の区切りをなくし、全学的に1限～4限を利用時間とする
 - ウ. 時間外での利用については、授業実習科目・課題の担当教員と工作センター間で使用する工作機械と具体的な期間や時間について打合せを行う
 - エ. 事前の打ち合わせで時間外利用の詳細が決められた場合は、日時の予約をした上で研究室との連携を図りながら学生利用をさせる
 - (b) 工作機械の使用条件
 - ア. 工作機械を使用する際は、事前に説明会・講習会等を受講させ、工作センターの仕様にあった加工方法で安全に使用させる
 - イ. これまでの改善により工作機械の安全性は向上したが、学生の単独使用不可の危険性の高い工作機械については予約制とし、工作センタースタッフが立ち会いのもと使用させる
 - (c) 工作センターではさまざまな学科の授業実習科目・課題が行われており、利用者の傾向に応じて既存の使用システムを再検討するとともに、引き続き、新しく安全性の高い工作機械の導入等のための情報収集を行う

<上野毛>

- (a) 安全衛生診断に基づき安全第一の運営を行う…毎年3月に中央労働災害防止協会の安全診断を実施し、指摘箇所の改善をすすめながら安全を最優先で工作機械を学生に利用させる
- (b) 講習会の開催…基本となる工作機械は研究室と事前に打ち合わせの上、学年単位または授業単位で講習会を開催し、その他工作機械は教員や学生の要望により都度開催する
- (c) 空圧機器環境の改善…工作機械室Aのコンプレッサーの容量不足が常態化していることで故障があり、容量の大きな機械に代替えし、サブタンクも

増設するとともに、工作センター内のコンプレッサー全てについて業者による定期点検を行う

- (d) NC工作機の選定…加工面積の広い2D主体のNC工作機の選定をするにあたり、試験的な機械を導入し、実証データをとる
(X574mm×Y910mm×Z56mm)

⑥ C M T E L

- ・展示収蔵品の収集、充実…CMTEL館内の素材、資料、トレンド資料の収集、既存展示品、参考作品の更新・追加を行う
- ・学生サービスの充実
 - (a) 学生の制作活動に対する実践的サポートの実施（制作相談窓口/問い合わせ/制作体験スペース）
 - (b) 全学生対象ワークショップ・イベント・マテリアル説明会の開催
 - (c) 端材等、提供サンプルの充実
 - (d) 学生または教員の要望により、機材のレクチャーを都度開催する
- ・学内、学外へ向けた広報活動
 - (a) CMTEL NEWS 発行・Twitterからの情報発信等広報ツールの制作・活用
 - (b) オープンキャンパスイベント実施、学外見学者、利用者受け入れ
 - (c) 学生向けCMTEL見学ツアーの開催(学科単位・研究室対象等、要望があれば随時実施)
 - (d) メディアショーケースによる展示
- ・授業への協力
 - (a) 施設の授業利用(貸切可能)
 - (b) マテリアルサンプル貸出(研究室単位での貸出、または教員への貸出)
 - (c) 授業・ゼミ向けワークショップ開催(要望があれば随時実施)

⑦ F a b C A V E

- ・3Dプリントなどファブリケーション施設運営…3Dプリンター（熱溶解積層・光造形）での作品出力を行う
- ・作品制作支援…作品制作のための技術支援や電子機器組込みなどの相談、ワークショップなどを行う
- ・VRコンテンツ制作…学内展示や美術館などのVRコンテンツを制作

⑧ 上野毛スタジオ

- ・写真、撮影、録音、映像の各スタジオ利用や制作について講習会を開催
- ・上野毛スタジオにとって必要な機材の調達、整備

◆附属アートアーカイヴセンター

① アートアーカイヴセンターの運営体制の構築

- ・各資料体の調査研究、収集、契約、保管、分類、データベース、展示等の仕組み作り
- ・各資料体の代表者（担当学科）の選定と支援

- ・資料体を公開するための体制作り
- ② 収蔵庫の環境整備 (IPM 構築)
 - ・収蔵庫の環境調査 (年3回) の実施
 - ・各室の温湿度管理
- ③ 各資料体の管理 (収集、契約、保管、データベース、分類、展示等)
 - ・和田誠資料の展覧会 (貸出し) に向けた体制作りと実施
 - ・データベース構築
 - ・各資料体の研究および整理状況の記録及び適正な収蔵場所の選定
 - (a) 和田誠アーカイヴ (b) 大野美代子アーカイヴ (c) もの派アーカイヴ
 - (d) 中嶋興写真資料 (e) 瀧口文庫・北園文庫 (f) 今井兼次資料
 - (g) 文様研究資料 (h) 横山操・加山又造アーカイヴ (i) 秋山邦晴文庫
 - (j) DNP ポスターアーカイヴ (k) 佐藤晃一アーカイヴ (l) 勝見勝資料
 - (m) 三上晴子アーカイヴ (n) 竹尾ポスターコレクション (o) 井上欣治資料
 - (p) 北吟吉資料 他
- ④ 活動内容および研究成果の発信
 - ・AAC 研究紀要3号制作
 - ・AAC オリジナルサイトの運営 (展覧会情報等の情報発信)
 - ・研究用ポータルサイト構築 (大学院、美術館、図書館等との連携強化)
 - ・第4回 AAC 主催シンポジウムの開催 (12月4日予定)
 - ・AAC 資料を活用した研究報告展覧会のサポート
- ⑤ アートテークギャラリー管理運営
 - ・約30の展覧会実施サポート
 - ・施設利用に関する安全面、衛生面等に関する取り組み強化
 - ・関係機関との連携した情報発信サポート

◆生涯学習センター

- ① 本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会・地域へアピールする場としての生涯学習事業を企画立案
 - ・本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会へアピールする場としての生涯学習事業の企画立案をする
 - ・教員の活動・発表・研究等を調査し、講座企画へと繋げる
 - ・参加実績のない教員への働きかけ
- ② こども講座における新たな連携プロジェクトの発掘
 - ・「積極的な連携先」への個別アプローチ
 - ・研究会の立ち上げなど、研究成果の「実践の場」としての講座づくり
 - ・「世田谷区 新・才能の芽を育てる体験学習『あそびじゅつ』」の受託
- ③ 上野毛・八王子キャンパスそれぞれの特色を生かした旗艦講座の検討
 - ・上野毛…連続シリーズ『〇〇世紀の芸術家列伝』などの大規模講座や、夏休みの『こどもオープンアトリエ』など、上野毛の文化的・教育的土壌を踏まえた展開

- ・八王子…連続講演シリーズの増枠『世界の美術館』『この一点』の2シリーズによる広報強化
- ④ 広報への活用および連携事業等への展開に活かすための活動記録のアーカイブ化を見据えた取りまとめ
 - ・過去の活動報告を冊子・アーカイブ化
 - ・夏休み『あそびじゅつ』活動報告作成
 - ・媒体展開（WEB や自治体広報との連動等）を視野に入れた報告の検討
 - ・年報のフォーマット作成、2021 年度の年度報告作成
- ⑤ 社会人の学び直しに対応した講座やプロジェクトの検討
 - ・需要や、全学的な協力体制の確認（関係部署との調整など）
 - ・施設・設備及び人的資源の確保

◆芸術人類学研究所 (IAA)

- ① <芸術人類学研究所活動ポリシー>

開所から 15 年を迎えるにあたり、「芸術人類学」という概念をあらためて検討し直し、大学の教育理念である「自由と意力」を体現し、1968 年に学長となった文化人類学者、故石田英一郎博士が提唱した「総合美術大学構想」のさらなる展開の核となる理念として位置づけし直す

 - ・「芸術人類学会」の創設
 - ・公的資金の獲得とその体系を構築し、広く社会にアピールする
 - ・「総合美術大学」にふさわしい、諸学に総合を与えるリベラルアーツの学理の柱となる組織作り
- ② 研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動
 - ・学内連携と本学学生への研究成果還元
 - (a) 学内各学科、図書館、アートアーカイブセンター、美術館との連携
 - (b) 「土地と力」プロジェクト・学内シンポジウム開催
(全学聴講開放/2021 年 11 月)
 - (c) 学生に対して研究所主催研究会の開放
- ③ 社会連携 … 学外研究機関、自治体等との共同プロジェクト
- ④ 地域連携 … 各種ワークショップ、里山（植樹）プロジェクト
- ⑤ 研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携
 - ・「土地と力」プロジェクト ↔ 芸術学科「21 世紀文化論」
 - ・「ユーロ=アジアをつらぬく美の文明史」 ↔ 大学美術館、芸術学科・「博物館実習 RII」
 - ・「エンタングルメント・デザイン」 ↔ 情報デザイン学科・「現代色彩論」
 - ・「贈与と祝祭の哲学」 ↔ 芸術学科・「民俗芸術論」「アジア思想史」
 - ・「来るべき美術」 ↔ 共通教育・「20 世紀美術論」「現代美術ゼミ」
 - ・「渚と森のフォークロア」 ↔ 芸術学科・「芸術学Ⅲ」「映画の現在」
- ⑥ 外部資金獲得に向けた取り組み

- ⑦ 「芸術人類学会」設立準備
- ⑧ 国際的学術交流、文化交流の深化
- ⑨ 活動内容および研究成果の発信 … Web サイト、SNS 等を利用した PR 展開と研究紀要『Art Anthropology』vol.17 発行（2022 年 3 月）

(2) 管理運営面の推進計画

◆総合企画部

【企画課】

- ① 入学試験に関する市場調査ならびに諸統計などの収集・分析
 - ・ 高等教育に関する情報収集、分析、調査、統計を行い基本情報の整備
 - ・ 教育成果の内部評価のためのデータベース作成
 - ・ 入学試験に関する市場の調査並びに諸統計等の収集、分析、作成により、入試並びに入試広報に対応した提案
- ② 学校経営に関する企画と提案
 - ・ 「世界に存在感のある大学となる」という理事長ミッションに対して、具現化のための目標設定や提案
 - ・ 目標の達成のために学外との連携の窓口となり、関連部署と連携しながら遂行する（地域の活性化・課題解決）
 - ・ 持続的な資金の獲得体制による研究活動の推進に向けた対策の提案
 - ・ 上野毛キャンパス再開発などを活かすための企画提案と実行に向けての調整
- ③ 学生募集に関する企画と提案
 - ・ 志願者数の確保とともに、多様かつ優れた学生獲得に向けた選抜プランの作成と提案

【広報課】

- ① 広報メディアのクオリティアップ
 - ・ 「世界に存在感のある大学となる」ためのブランディングメディアの確立
 - ・ 志願者獲得媒体の強化
- ② 大学広報の強化
 - ・ 志願者数の確保とともに、多様な学生獲得に向けた、オープンキャンパス、進学相談会、高校ガイダンス、学校見学や高校訪問の実行
 - ・ 21 世紀の美大イメージの確立による大学のブランド価値向上にむけた取り組みプランの作成と提案
 - ・ 多様な学生獲得に向けた、イベントや広報媒体の対応による情報発信
 - ・ アーツ千代田 3331 アキバタマビ、Tama Art university Bureau の運営と情報発信

◆総務部

【総務課】

- ① 法人運営環境の整備
 - ・理事会・評議員会の運営
 - ・理事長及び理事の意思決定サポート体制の整備
 - ・電子稟議・決済システムの導入
 - ・現行規程の点検・改正及び制定
 - ・各種委員会等の権限・位置付けの点検、見直し
- ② 人材の確保及び人事制度の確立
 - ・新卒及び経験者採用の実施
 - ・事務組織の見直し
 - ・研修制度の見直し、メンター・メンティ制度の導入
 - ・専門職・一般職制度の導入
 - ・評価制度の見直し
- ③ 働きやすい職場環境の整備
 - ・行動計画（次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法）実現に向けた対応
 - ・ワークライフバランスの推進
 - ・横断型プロジェクト活動の推進
 - ・福利厚生の見直し
- ④ 管理体制の確立
 - ・危機管理上の課題をまとめ対応を検討
 - ・災害時マニュアルを見直し、学内に周知
 - ・学生参加の避難訓練を実施
- ⑤ 上野毛キャンパスの整備
 - ・駒沢通り拡幅にかかる世田谷区との折衝サポート
 - ・将来整備計画を考慮した今年度整備内容の調整
 - ・施設・設備・備品管理の円滑な実施

【八王子総務課】

- ① 施設・設備の改修整備
 - ・GHP エアコン機器更新（メディアセンターB1F・1F・2F/テキスタイル棟 201・202）
 - ・ファンコイルユニット更新工事（デザイン棟 3F・5F）
 - ・図書館外壁補修工事
 - ・図書館間接照明 LED 化工事
 - ・本部棟タイルカーペット張替え工事
- ② 学生寮竣工後の対応
 - ・設備管理会社との連携
 - ・運営委託会社、寮長・寮母との引継ぎ
 - ・学生入寮対応

- ・消防計画規定の提出
- ③ 八王子キャンパス大規模修繕計画
 - ・次年度建物修繕計画案策定（9月）
 - ・次年度建物修繕計画予算案策定（10月）
 - ・次年度建物修繕計画予算申請（11月）
- ④ キャンパス警備の強化
 - ・警備業者変更に伴う業務内容の監督・指導
 - ・キャンパス内入出構チェックの強化
 - ・機械警備（防犯カメラ増設等）の計画
- ⑤ 業務の見直しと業務分担の修正
 - ・業務分担（案）作成/業務の洗い出しと見直し（4月）
 - ・業務分担作成（6月）
 - ・通年 業務の見直しと業務分担の修正

【経理課】

- ① 財務の継続的な安定と、収入の基盤強化
 - ・2020年度比で資産運用収入の20%増、恒常的な寄付金収入の20%増を目標とする
- ② 予算制度のPDCAサイクルの確立
 - ・予算制度のPDCAサイクルを確立し、その評価の実施及び各研究室・部署の予算科目の追加
- ③ 大学の全体整備計画に係る財務シミュレーションによる資金計画
 - ・キャンパス整備計画に係る複数の詳細な年度別財務シミュレーションを作成し、資金計画を立案

【情報推進課】

- ① 情報共有化に向けた学内体制の検討
 - ・就職システムのCampusSquareへの統合を2021年度内目途に実施する
 - ・Google Workspace(旧称 G Suite)の運用業務の実施
 - ・入システムのバックアップ体制の構築

◆キャンパス設計室

- ① 上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携（5～7年以内）
 - ・世界に存在感を示す大学のカリキュラムやコンテンツを発表・創作活動する拠点として、基本方針の再整備を行う
 - ・全キャンパス施設を視野に入れ、それぞれに於ける特徴や位置付け、将来に想定される課題を考慮し、必要な機能を分担配置することで、連携を活性化させるよう促す
 - ・改組と併せてマスタースケジュールを策定し、直近～中期に於ける必要施設を確保するとともに多様な将来へ対応できるよう柔軟性を持った施設計画とする

- ② 八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行（5～10年）
- ・「図書館棟」および「彫刻棟群の一部」の実施を予定する（7月～11月）
 - ・引き続き、安全確保、各科運営調整、コストデータの蓄積を行い、次年以降に反映させる
 - ・大規模修繕計画（骨子）について、関係各所と調整を図り確定させる
 - ・キャンパス全体でのスケールメリットを生かしたコストダウンに取り組む
 - ・大規模修繕計画に基づき、次年度の建物について調整を開始する
- ③ 共通施設の充実と利用しやすさの推進
- ・両キャンパス整備、改組編成に於ける新築計画および既存施設改修に於いて、共通施設の充実と利用しやすさ考慮して設計を行う

以 上